

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えし、また医療の進歩に寄与するべく絶えず検査領域の拡大に努めておりますが、このたび、下記項目の検査受託を開始することになりました。

取り急ぎご案内させていただきますので、ご利用のほど宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- アルドステロン (CLEIA) / レニン活性比 項目コード：2858
- アルドステロン (CLEIA) / 活性型レニン定量 (レニン定量) 比 項目コード：2859

受託開始日

2022年8月1日(月) 受付分より新規受託開始

※裏面の受託要項 備考欄を十分にご確認の上、ご依頼ください。



保健科学グループ

保健科学研究所 〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL. 045-333-1661
保健科学東日本 〒365-8585 埼玉県鴻巣市天神3-673 TEL. 048-543-4000
保健科学西日本 〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町328 TEL. 075-933-6060

【受託要項】

項目コード	検査項目 JLAC10	検体 必要量 (ml)	容 器 保存方法	検査方法	基準値	報告範囲	所要 日数	実施料 判断料	備考欄
2858	アルドステロン (CLEIA) /レニン活性比 4D120-0000-022-919	血漿0.6 又は 血漿0.3 血清0.3 (同時提出)	E-2→G(凍結) 又は E-2→G(凍結) A1-1(冷蔵)	アルドステロン :CLEIA法 レニン活性 :EIA法	100未満	0~999,000	3~5日		※1
2859	アルドステロン (CLEIA) /活性型レニン定量 (レニン定量) 比 4D122-0000-022-919	血漿0.6 又は 血漿0.3 血清0.3 (同時提出)	E-2→G(凍結) 又は E-2→G(凍結) A1-1(冷蔵)	CLEIA法	20未満	0~999,000	3~5日		※2

※1 アルドステロン (CLEIA) /レニン活性比のみのご依頼は出来ません。

【3061】アルドステロン、【3063 (臥位) 又は2415 (座位) 又は2996 (立位)】レニン活性も同時にご依頼ください。

※2 アルドステロン (CLEIA) /活性型レニン定量 (レニン定量) 比のみのご依頼は出来ません。

【3061】アルドステロン、【3470】活性型レニン定量 (レニン定量) も同時にご依頼ください。

▼臨床的意義的

本検査は、原発性アルドステロン症のスクリーニング検査です。

原発性アルドステロン症は、過剰なアルドステロンにより高血圧、レニン分泌の抑制、低K血症、低Mg血症、代謝性アルカローシスなどを呈する疾患で、従来は稀な疾患とされてきましたが、高血圧患者の約5%を占めるとの報告があります。

本検査項目は、原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021においてスクリーニング検査として記載されております。

▼原発性アルドステロン症の判定基準

【2858】 アルドステロ (CLEIA) /レニン活性比	【2859】 アルドステロ (CLEIA) /活性型レニン定量 (レニン定量) 比
PAC《CLEIA法》/PRA比 (ARR) ≥ 200 かつ PAC《CLEIA法》 $\geq 60\text{pg/mL}$ ただし、 PAC《CLEIA法》/PRA比が100~200 (ARR境界域) かつ PAC《CLEIA法》 $\geq 60\text{pg/mL}$ の時は暫定的に陽性	PAC《CLEIA法》/ARC比 (ARR) ≥ 40 かつ PAC《CLEIA法》 $\geq 60\text{pg/mL}$ ただし、 PAC《CLEIA法》/ARC比が20~40 (ARR境界域) かつ PAC《CLEIA法》 $\geq 60\text{pg/mL}$ の時は暫定的に陽性

▼参考文献

・日本内分泌学会：日本内分泌学会雑誌 97 (Suppl) : 16~21, 2021